



# 所信表明演説に消費税増税も集団的自衛権もなし

## 国民不在、国会後回しの安倍政権

### 民主主義を踏みにじる安倍首相は辞任せよの声を挙げよう

安倍首相は、9月29日召集の第187臨時国会（11月30日）を「地方」「女性」の国会と位置づけます。しかし、その実は、地方切り捨て、非正規労働者の拡大です。その所信表明を受けて、翌日の中日は「大事なことを話

さねば」として「安倍晋三首相の所信表明演説には、消費税の10%への引き上げも、集団的自衛権という言葉も登場しなかった。国民の関心事に全く触れない演説では、説明責任を果たしたとはとてもいえない。」

同じく日経も「国民の疑問に答える国会論戦を望む」として「アベノミクスの先行きは大丈夫なのか。消費増税は予定通り実施するのか。：国民が知りたいのはそういうことだ。疑問を置き去りにしない国会論戦にしてもらいたい」としま

した。「丁寧な説明」を売りものにしてるのが安倍首相ですが、中日は、「まずは経済。実質賃金が上がらず、景気が四月の消費税増税で腰折れしても、消費税は来年十月、10%に再増税されるのか否か。国民の関心が集まるのは当然だ。しかし、首相は『慎重に目配りしていくことが必要だ』と素つ気ない。景気動向を見て、国会終了後の十二月に判断するつもりなのだろうが、国会論戦のためにも考えを示すべきでなかったか。もう一つは集団的自衛権の問題だ。安倍内閣は七月一日、政府の憲法解釈を変更し、行使を容認する閣議決定を行った。平和主義、専守防衛など、戦後日本の『国のかたち』を変える方針転換だ。世論調査でも依然、行使容認反対は六割を超える。なぜ堂々と方針を示して、国会論戦に臨まないのか。来年度以降の法整備を念頭に『切れ目のない安全保障法制の整備



に向けた準備を進める』と言うだけでは、説明を避けたとのそしりは免れまい。そして、日経は、「会期中ずつと『検討中』『まだ白紙』といった木で鼻をくくったような答弁ばかりでは、国民はかえって心乱されよう。疑問符を打ちます。選挙で勝った「最高権力者」を自認する安倍は、「国民の関心事に全く触れない演説（丁寧な説明）で済ませ、

「素つ気なく」木で鼻をくくった」答弁で「国民の疑問に答え」ずに暴走しようとするでしょう。国会後回しで集団的自衛権行使を容認する日米ガイドライン再改定を進め、閉会中に消費税増税を決めようとするでしょう。こんな安倍内閣は許せません。辞任せよの声を挙げましょう。

### 中間報告が示した日米協力



集団的自衛権行使を容認した閣議決定を適切に反映

### 米軍支援



地理的な制約なく、世界規模での米軍支援が可能に

### グレーゾーン



グレーゾーンを含めて「平時から緊急事態まで切れ目のない形」で対応

2014年10月9日付中日

福田 秀俊・世話人

# 道行く人から「頑張れよ」の声援

毎月一度の中電・岡崎支社前での「中電前行動 in 岡崎（9月11日）に元気を頂きました。」

「原発いらぬ！安倍やめろ！」

「川内原発・再稼働反対」

「地震が怖い。火山が怖い」

「すべて原発再稼働反対」

「浜岡原発・廃炉に賛成」・

みなさんと太鼓や笛も動員して思い切り声を出すと

## 浜岡原発の再稼働を

許さないひまわり集会

11月22日(土) ◆先着28人

8:30 出発～18:00 帰着予定

駿府城公園(紅葉山庭園前広場)

浜岡原発防波壁も見学

◆3,000円(弁当付き)

からの「頑張れよ」の声援に励まされました。参加して本当に良かったと足取り軽く帰宅しました。

八田ひろ子(梅園町)

## 福島に行ってきました

福島県富岡町の中心部に、東京電力エネルギー館とエンジン・インシユタイン・キューリー夫人らの生家をモデルとした西洋風の建物が建ち並んでいた。そこでは、原発の仕組みや安全性などについて展示されており、小中学生は、課外授業として見学させられ、「原発を、夢のエネルギーと信じ、絶賛する感想文」を提出させ、近隣の町々に配布していた。

また、広野町には、第一原発7・8号機の増設に際して、広大な敷地に130億円もかけて建設(電気料金に上乗せ)された国内で初めてのサッカー場とトレーニングセンターがありました。これについて、当時の東電社長が「福島県さんの明治以来のご協力に対する恩

返しと、これからお世話になるので、プレゼント」などと記者会見で述べたとのこと。

東電と政府は、子供たちをも利用してウソの安全性を宣伝し、莫大なお金を使って、住民の目・口・耳を封じた。その一端を見聞きし、憤りを新たにしました。

小出道子(東蔵前町)

## 「標的の村」上映成功

### 204名が鑑賞

9月21日(日)、ドキュメンタリー映画「標的の村」を西三河弁護士会館で上映し、4回の上映で、延204名の方が鑑賞し、沖縄問題への関心の高さを示しました。

映画は、東村高江に新たに6つのオスプレイ着陸帯建設を強行する自民党政権の対米従属・住民無視の姿とスラップ訴訟という強権ぶりを暴き、合わせて住民のしたたかさも描きます。そして、圧巻は沖縄県民による普天

11月の9の日宣伝  
4日(火)16時  
ピアゴ・矢作店

間基地の完全閉鎖行動です。

普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古への新基地建設反対、オスプレイ配備反対は、オール沖縄の声です。この声を背景に、沖縄県知事選挙(10月30日告示、11月16日投票)に立候補する翁長雄志那覇市長へのカンパが43、291円寄せられました。寄せ書きと合わせて、応援に駆けつける三浦照代さん(大和町)に託しました。

事務局長 石田邦芳

## “怒り”の感想

10人の方から感想が寄せられました。

◆泣けて、泣けて、泣けてしまいました。くやしい!!がんばろう!!

◆沖縄がこれほどとは思わなかった。抗議行動に対する国の起訴は、越権行為。沖縄を見に行かなくては!